

## 光葉ワーキングクラブメールマガジン

<2014年10月号>

91号 2014. 10. 01 配信

10月になると「今年もあと3ヶ月」とカレンダーの残りを数えてしまいます。「まだ3ヶ月」と思い、今年やりたかったこと、やらなくてはならないことなどにチャレンジしてみませんか？

ワーキングネットワークでは11月8日（土）、9日（日）の秋桜祭の準備をはじめています。

### ■同窓会たより

#### ●『2014年度ヨーロッパ研修旅行』の報告

9月1日～8日の8日間、坂東眞理子理事長・学長、金子朝子副学長と一緒に総勢22名の参加で、ブタペスト・ウィーン・ザルツブルグをめぐるヨーロッパ研修旅行を実施いたしました。ウィーンでは人見楳子名誉理事長がご参加になり、新マルガレーテ老人ホームを視察しました。ここは幼稚園とうまく機能している施設で学ぶところが沢山ありました。またアップルパイ作り、ワルツレッスン、音楽会などそれぞれの興味に合わせたアクティビティも充実しており、参加のみなさんから「120%の満足度」と喜ばれ感謝されました。

#### ●『災害お見舞いのはがき』

“平成26年8月豪雨”の災害に遭われた地域の同窓生に災害お見舞いのはがきを出しました。高知県の高知市・四万十市、徳島県の阿南市、山口県の岩国市、京都府の福知山市、岐阜県の高山市の6か所170人と広島市の安佐北区・安佐南区の42人の同窓生にお送り致しました。同窓会本部としては、これからも瞬時に対応してまいります。

#### 『お菓子教室“バナナとくるみのキャラメルケーキとビスコッティ”』

日時：10月29日（水）12:30～16:00

場所：大学4号館2階調理室

講師：田中多喜子さん（1964年 生活科学科卒）

会費：1800円

申し込み：10月20日（月）まで、先着20名、同窓会室まで

e-mail:dousoukai@swu.ac.jp または Fax:03-3411-7713

●合同ワーキング『女性の魅力アップセミナー』開催の報告

日 時：2014年9月13日（土） 11：00～16：00

場 所：昭和女子大学学園本部館3階 大会議室

今回は、4つのネットワーキング合同で、世代や職種をこえて興味を持てる、社会のトレンドを知り、もっと魅力的になろう～をテーマにセミナーを開催しました。1部、2部、懇親会にはのべ67名の参加があり、講演会では講師のみなさまのお話を興味深く伺うことができ、懇親会では全員の自己紹介、情報交換、楽しくおしゃべりをいたしました。

加藤澄江名誉教授が「先日、はじめて携帯を持ちました」と講演内容にぴったりの自己紹介をされると、大きな拍手がわきました。

第1部 講演

『仕事で家庭で子育てで、スマートフォン・SNSを使いこなそう』

講師：慶應義塾大学 SFC 研究所 上席所員 政策・メディア博士

昭和女子大学人間社会学部 現代教養学科特命講師 天笠邦一氏

(講演概要)

スマートフォンの普及率、利用層の説明やSNS（ライン・フェイスブック・ツイッターなど）の機能の説明があり、10代～20代ではあたりまえのように利用されているが、そこには当然メリットとデメリットがある。SNSが原因で犯罪に巻き込まれたり、学校ではいじめや学力低下などの悪影響もでている。現代社会における「強いつながり」と「弱いつながり」がSNSの世界にも反映している。上手に活用するためのコツ&考え方として「情報→メディア→つながり→情報→」のサイクルを上手に回転させることが重要である。

子育ての負担とメディアとの関係は、ライフスタイルによりメディアの活き方は異なるが、ベストバランスを保ち、強いつながりのみだと拘束感が強くなるので公的サポート等の逃げ道も必要とのこと。

- ・有職の母親：ゆるい人間関係を好み、メディアは活かさない
  - ・専業の母親：携帯を利用し「ママ友」を増やすなどメディアが活きる
- 大切なことは、安全・安心に利用することである。
- ・常に情報源は、複数確認すること
  - ・パスワードの管理に注意すること
  - ・ウイルスソフトをインストールすること
  - ・ネット上での発言は街頭宣伝車での演説と心得ること
  - ・ログ（過去の履歴）を確認すること
  - ・上級編として「連携」させないこと

(感想)

天笠先生は、仕事、家庭、子育てのどの場面にもある人と人の「つながり」とSNSの関係をわかりやすくお話ししてくださいました。懇親会の場にもご同席いただき「SNS初心者の質問」にやさしくお答えいただくことができました。

## 第2部 講演

『食を通した子育て支援』

講師：立花 光子氏（1993年 食物科学科卒）

元桶川市役所行政管理栄養士。管理栄養士、健康運動指導士、健康咀嚼指導士として、活動。市町村行政管理栄養士時代には、公衆栄養、集団給食管理、子育て支援などの活動にも取り組まれ、現在はフリー。

(講演概要)

立花さんからは、豊富な実務経験から、医療機関では患者さんのバックグラウンド、職業、生活時間などを考慮し傾聴する重要性について、学校給食の現場では給食現場は調理する人と献立作成をする人だけでなく、農家の方、業者の方や食材を配達して下さる方が居ないと成り立たないということをお話しくださいました。また行政の子育て支援センターでは、お母さん一人一人のレベルに合わせた丁寧な子育て支援が必要であると提言がありました。

公務員からフリーになったのは、家庭での介護が必要になったため、落ち着いたら活動を再開する。若いうちは正規職で頑張りたい、フリーになるにしても再就職するにも資格があるとよい、学生さんへのアドバイスがありました。

講師：菊池 早容氏（2000年 生活科学科卒）

杉の子保育会下馬鳩ぼっぼ保育園栄養士

(講演概要)

保育園児の中にはアレルギーのある子が1割いるので、その子にあった食事を作ることを心がけている。また、「保育園での食育ってなんだろう」といつも模索しており、子供たちに「食べることは楽しいこと」と思うようにいろいろ工夫されているお話を伺いました。

- ・お腹がすくリズムのもてる子ども
- ・食べたいもの、好きなものが増える子に
- ・一緒に食べたい人がいる子どもに
- ・食事づくり、準備にかかわる子どもに
- ・食べ物を話題にする子どもに

食における子育て支援とは、家庭が変わらないと意味がないと考え、子どもを通じて母親へ働きかけている。具体的には、初めて子どもを育てる方のために「離乳食講座」や、一緒に食事をつくりませんか！という「キッチンへのお誘い」、「アレルギー講座（代替え食品）」などを行っているとのことでした。

菊池さんのお話は、保育園の現場からの事例が豊富で、参加の学生の皆さんがとても真剣に傾聴していました。

## ■広げよう光の葉

木村 葉子さん

1990年 日本文学科卒業

毎日新聞に記者として入社して、早いもので四半世紀近くが過ぎました。生まれてから大学卒業までの時間以上を新聞記者として働き続けてきたかと思うと、まさに「光陰矢のごとし」です。

地方支局(仙台)勤務や整理部(見出しをつけたり、紙面レイアウトをしたりする部署)、生活報道部などを経て、今は毎日小学生新聞(毎小)を担当しています。1936年12月の創刊で80年近い歴史を持つ毎小は、全国最古の小学生新聞です。手塚治虫、藤子不二雄、松本零士ら著名な漫画家が、アマチュア時代に描いていました。歴史が長い媒体なので、取材先でかつての毎小読者に会うこともあります。先日も福音館書店相談役で、児童文学者の松居直さんから、少年時代に毎小をスクラップしていたことを聞きました。

家庭で新聞をとることが当たり前ではなくなった今、子どものために新聞をとろうという家庭は、教育熱心で意識が高く、暮らしに余裕のあるところばかり。読者の子どもたちも優秀で、送られてくるスクラップ帳や作文などの作品はかなりのレベルです。とはいえ、小学生向けの媒体なので、大人の新聞(本紙)の記事をそのまま載せても子どもたちは理解できません。かみ砕いた説明が必要です。米軍のシリア空爆、エボラ出血熱、日朝協議、気候変動サミット、スコットランド独立をめぐる住民投票……。これらの国際ニュースも小学生にもわかる言葉を選び、図表などを入れて掲載しています。国内ニュースも同様です。間違いがあると、編集部にすぐに子どもから電話がかかってきます。「子ども騙し」は通用しないのです。

毎小を作るには専門性だけでなく、幅広い知識や興味関心も大切です。本紙の記者は社会部、経済部、政治部、運動部などにわかれ、その中でも担当があるので「専門以外は門外漢」ということがあります。一方、毎小では政治、経済、スポーツ、科学など、幅広い分野を網羅しぎゅっとわかりやすく圧縮します。「そもそも」に立ち返ることもしばしば。社会の事象を幅広く捉え、子どもたちに寄り添った紙面を作ることは、記者としてかなり鍛えられる職場です。

私は毎小に携わるだけでなく、毎日教育サポーターとして学校現場で新聞の授業をしています。十年以上前から記者派遣を始め、これまでに小学生から八十歳代までを対象に100回以上出向いてきました。学校などとのやり取りや授業内容、資料の準備など、ルーティンの作業に加えた作業なので負担ではあります。でも、一人でも多くの子どもに「新聞はおもしろい」と思ってもらえるよう、日々努めています。

次世代の新聞読者だけでなく、よりよい民主主義社会を担う子どもを育てることが、毎小や記者派遣の役割です。私が子どもたちにまいた小さな種が、いつの日か大輪の花が咲くことがあれば、こんなにうれしいことはありません。

[End]

## ☰ 2014年 10月～12月の運勢 ☰

日毎に夕暮れが早くなり、稲穂も黄金色に輝いて実りの秋がやってまいりました。涼しい秋の夜は中国の詩人、韓愈の詩の一節にもあるように灯火の下でゆっくりと書物に親しむのに良い季節です。キャンドルを灯して瞑想するのも良いでしょう。



秋は金の気が旺盛となり自律神経が乱れやすくなりますが、実りの季節を迎えて美味しい食材が沢山出回ります。体を温める根菜類やビタミン豊富な果物、免疫力を高める茸類を食して寒い冬に備えましょう。

### < ☉十二支別 2014年 10～12月の運勢 >

子	本当は何をすべきかをあなたは心の中で、もう知っているはずですが、先延ばしにしないほうが順調に整うでしょう。
丑	水は悲しみや痛み、苦しみをすべて洗い流してくれます。積極的に水と関わる場所に行ってみましょう。手を洗うだけでも邪気が払われます。
寅	不調の原因は心の中にあるこだわりかもしれません。あなたにはもうふさわしくなくなった物を処分しましょう。心身共にデトックスで爽快に。
卯	周囲に笑顔で接するだけで、あなたの波動とともに目に見える世界がよりよい方向へと転換します。あなたの笑顔で救われる人がいるのですよ。
辰	安全と思われる道よりも、快いと感じる方があなたの本当に求めている道です。あなたの快いと感じる感覚を大切に、自分自身を信じましょう。
巳	時には周囲に助けを求めることも必要です。それは周りの人に「助ける機会」をつくることでもあるのです。
午	あなたが子供だった頃の感性を取り戻してみましょう。その刺激は全身に喜びの信号となって伝わり、心身共に若々しさが蘇ります。
未	とても重要な機会が訪れようとしています。感覚を研ぎ澄ませて待ちましょう。躊躇せずに扉を開けて大いなるチャンスを手にしてください。
申	あなたが実現したいと思っていることを、想像力を使って脳内に創造しましょう。明確に思い描く程、それは早く現実のものとなります。
酉	あなたの体調と心の動きに注意を払いましょう。心が乱れると体調も不調になります。両者のバランスがなにより健康の秘訣です。
戌	心配は上手いかなことを強くイメージすることです。心配するよりも、喜びとともに成功を祈りうまくいくことを信じることです。
亥	ぐずぐずしているのは潜在意識が最善の方法を探しているのです。焦らなくても大丈夫、時期が来れば動きだします。

☉ 皆様のお幸せをお祈り申し上げます。